

なぜ私はここにいるのか。私は未来に何をつなぐのか。



ブラジルへのパスポート (昭和35年)

第7回はままつグローバルフェア ホールイベント
写真で語る私の歴史
～これまでの私とこれからの私～

浜松に縁のある外国ルーツの住民が貴重な写真とともに自らの歴史を振り返ります。
彼らの人生に耳を傾け、浜松の多様性について一緒に考えてみませんか。

2017年2月12日(日) クリエイト浜松2F ホール

10:10-11:10 フォト・ストーリーテリング (写真を使った語り)
ブラジル、中国、フィリピン、ペルー、タイにルーツのある6名が写真を使って語ります

11:10-11:40 発表者との交流会 (2Fホール前フロア)

公益財団法人浜松国際交流協会(HICE) 静岡県浜松市中区早馬町2-1 クリエイト浜松4F
Tel. 053-458-2170 Fax. 053-458-2197

平成28年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 浜松版地域日本語教師養成事業
後援：浜松市、浜松市教育委員会、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、NHK静岡放送局・浜松支局、K-mix、FM Haro!
協力：浜松市外国人学習支援センター、With U-Net、浜松版地域日本語教師養成講座実行委員会

公益財団法人浜松国際交流協会 (HICE)



なぜ私はここにいるのか。私は未来に何をつなぐのか。



ブラジルへのパスポート (昭和 35 年)

第7回はまつグローバルフェア ホールイベント
写真で語る私の歴史
～これまでの私とこれからの私～

浜松に縁のある外国ルーツの住民が貴重な写真とともに自らの歴史を振り返ります。
彼らの人生に耳を傾け、浜松の多様性について一緒に考えてみませんか。

2017年2月12日(日) クリエイト浜松2F ホール
10:10-11:10 フォト・ストーリーテリング (写真を使った語り)
ブラジル、中国、フィリピン、ペルー、タイにルーツのある6名が写真を使って語ります
11:10-11:40 発表者との交流会 (2Fホール前フロア)

公益財団法人浜松国際交流協会(HICE) 静岡県浜松市中区早馬町 2-1 クリエイト浜松 4F
Tel. 053-458-2170 Fax. 053-458-2197

平成 28 年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 浜松版地域日本語教師養成事業
後援：浜松市、浜松市教育委員会、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、NHK静岡放送局・浜松支局、K-mix、FM Haro!
協力：浜松市外国人学習支援センター、With U-Net、浜松版地域日本語教師養成講座実行委員会

公益財団法人浜松国際交流協会 (HICE)

PROFILE

01 大塚 千賀代 (ブラジル) Chikayo Otsuka (Brazil)

昭和27年大阪生まれ。父がCMを見てブラジル移住を決意し、昭和35年8歳の時に家族と共にブラジルに移住。ポルトガル語がわからず苦労していたところを、近所に住む日系人の女の子達に助けをもらいながら現地の学校へ通う。サンパウロ私立イデアル大学を卒業し、ブラジルでは社長室秘書、通訳、翻訳、国語教師の職に就く。30年間のブラジルでの生活を経て、平成3年日本へ帰国。現在、HICEにて勤務するほか、静岡文化芸術大学でポルトガル語講師も行っている。プライベートではイベントのMCとして活躍。様々なボランティア活動にも参加している。



02 松下 パンティパ (タイ) Pantipa Matsushita (Thailand)

1982年タイのナコンラチャシマー出身。友達の友達として知り合った日本人の男性と、男性が出張に来ていたタイで偶然再会。それからお付き合いが始まり、2007年結婚。来日後は日本語がわからずふさぎ込んでいたが、このままではいけないと独学で猛勉強。徐々に日本語がわかるようになり、娘の幼稚園では卒業アルバム委員や卒園時の司会を務めることに。将来夫の仕事を手伝うために、浜松工業高等学校定時制へ進学。外国にルーツのある同級生らから、お姉さんのように頼られる存在。



03 岡部 デリア (ペルー) Delia Okabe (Peru)

1972年、ペルー・リマ市生まれの日系2世。ペルーで日本語教師だった祖父は、第二次世界大戦中アメリカの強制収容所に収容された。戦後ペルーに戻り、再び教壇に立ったリマの日本学校で、姉兄と共に、本人も8歳まで日本語を学んでいた。1980年代後半のひどいインフレと情勢不安の中で、日本へ出稼ぎに出た姉に会いに1993年来日。その後、茨城県でブラジル人の夫と出会い、結婚。息子に恵まれる。左手の手術をきっかけに、仕事一筋だったこれまでの人生を振り返り、現在は祖父とした約束を果たすため、日本語を学び直し中。



04 五藤 幸来 (中国) Yuki Goto (China)

1974年中国の吉林省に生まれる。小学校教師や検査技師を経て、2010年10月に来日。技能実習生として掛川で働いていた。来日中に日本人の夫と結婚。静岡国際言語学院で日本語を2年間勉強した。現在は静岡県立遠江総合高校で、中国人学生の日本語支援や通訳をするほか、企業の依頼で日本人に中国語を教えたり、中国人に日本語を教えたりしている。ときどき夫婦げんかをすることもあるが、自身と息子に幸せを呼ぶ日本名をつけてくれた夫に感謝している。



05 中里 ユキエ (ブラジル) Yukie Nakasato (Brazil)

1954年ブラジルサンパウロ州生まれ。日系3世。幼少期から日本の文化に触れながら育つ。ブラジル人と結婚し、3人の子どもの子育てをしながら仕事に奮闘。様々な苦境を乗り越える。1997年12月来日。工場で働きながら家庭を支え、我が子の教育にも熱心に向き合う。来日時は日本語ができなかったが、懸命に学び、日本語能力試験N2に合格。現在はNPO法人浜松外国人子ども教育支援協会に所属し、日本語教育支援や母国語教育支援に力を注いでいる。



06 フジサキ アキコ アイラ (フィリピン) Akiko Aira Fujisaki (The Philippines)

1999年生まれの17歳。父は日本人、母はフィリピン人。8歳の時に、母と共に来日するもフィリピンの親戚や生活が恋しくて3ヶ月で帰国。フィリピンで母と離れた生活を送り、11歳で再来日。母と一緒に暮らしたいという思いで必死で日本の学校へ通うも、周囲となじめず中学2年の途中で再び帰国。再び母と離れた寂しい気持ちをバネにし、フィリピンでは中学校を優秀な成績で卒業。2016年、3つの理由で再々来日。来日後は、日本語を猛勉強し日本語能力試験N3に合格。今春、定時制高校を受験予定。



浜松市外国人住民数 (住民基本台帳による 平成29年1月1日現在)	
国籍	人数
ブラジル	8,516
フィリピン	3,433
中国	2,482
ペルー	1,666
ベトナム	1,772
その他(76国)	3,791
総数(81国)	21,660
浜松市総人口	807,893

いろいろな文化・個性を持つ わたし、あなた、みんなで共に生きる ～多文化共生～

現在、浜松市には約2万2千人の外国人市民が暮らしています。その他にも、日本国籍を取った人や、外国人を親に持つ人、日本国籍だけど海外で生まれ育った人などを含めると、外国につながる人はもっと多くいます。浜松市はすでに多文化なまちなのです。そして、そのように様々な文化や個性をもつ人々がお互いの違いを認め合って共に生き、新しい社会をつくっていくことが多文化共生です。様々な個性をもつ「わたし」と「あなた」で新しい「みんな」の社会をつくっていく、それは、誰にとっても住みやすい社会になるはず。まずはいろいろな人と出会い、文化を知り、交流することからはじめませんか。

日本語教師と外国人学習者が協働で行う 自分史作成プロジェクトワーク

HICEでは、多文化共生を進めるための日本語教育を担う人材を増やそうと、文化庁より委託を受け「浜松版地域日本語教師養成講座」を開催しています。この「写真で語る私の歴史」は、講座の中の実践ワークの一つです。受講した日本語教師らは、外国人学習者と1対1で向き合い、母国での生活や来日の経緯、日本での苦勞、将来の夢について、写真とともに自分史をまとめる作業を協働で行って来ました。対話をしながら築いた信頼関係は、今後地域で日本語教師として活動する上で、かけがえのない財産となるでしょう。今回、どの発表者からも、日本で生活するためには日本語が欠かせないという話が聞かれました。縁あって日本に住む彼らと共に、多文化共生のための日本語教育がさらに充実するよう、これからも取り組んでいきたいと思ひます。

